



長野県飯田技術専門校へようこそ

1

I 今昔物語

はじめに

当校の人材育成の歩みや現在の取組みを『飯田技術専門校 今昔物語』として紹介します

飯田技術専門校は、長野県が設置運営する公共職業能力開発機関で、就業に必要な基礎的技術・技能・知識及び産業人としての心構えを習得できるよう支援し、地域が必要とする人材を育成しています。

当校は、昭和21年5月に長野県飯田職業補導所として開所して以降、建築科・木工科・石工科・機械科・自動車整備科などの学科が設けられ、平成28年3月までに5,161名を地域の産業界へお送りしてきました。

現在は、①自動車整備科・木造建築科の普通課程や、②企業に在職しながら実践的な技術技能研修を行うスキルアップ講座、③離職者等の早期就職促進のため、企業・民間教育訓練機関等に職業訓練を委託して実施する民間活用委託訓練事業など幅広い人材育成を行っています。

創立当時から現在までの歩みとともに、人材育成の現状を紹介しますのでご覧ください。また、入校への動機付けとなれば幸いです。



飯田技術専門校の沿革

2

昭和	21年	5月	16日	長野県飯田職業補導所設置(職業安定法による) 建築科(定員30名)1職種で発足
	23	2	25	長野県飯田公共職業補導所と改称
		12	31	長野県喬木公共職業補導所を統合、建築科定員70名、鈴加町へ移転
	24	7	1	建具科(定員20名)、石工科(定員20名)を増設 建築科20名減員(定員50名)、総定員90名
	26	7	7	石工科定員5名増員(定員25名)、総定員95名
		12	26	庁舎を飯田市上飯田(白山町)6940に新築移転
	28	4	1	建具科を木工科と改称
	33	7	1	職業訓練法施行により長野県飯田職業訓練所と改称
	34	4	1	建築科を建築大工科と改称
	36	4	1	長野県伊那職業訓練所の石工科を統合、総定員95名
		10	1	機械科(定員40名)ブロック建築科(定員30名)を増設し5職種、総定員165名
	37	7	1	石工科を廃止しブロック建築科へ吸収、4職種、総定員140名
	39	10	1	自動車整備科(定員30名)を増設し、5職種、総定員170名
	40	4	1	長野県技術学園飯田職業訓練所と改称
	44	10	1	新職業訓練法の施行により長野県飯田専修職業訓練校と改称 建築大工科を建築科に改称
	48	4	1	ブロック建築科、木工科廃止、機械科10名減員(定員30名)、総定員110名
	53	4	1	長野県飯田技術専門校と改称
	55	4	1	校舎を現在地に新築移転(寄宿舍も同時開設)
	59	3	23	校舎敷地及び寄宿舍敷地を飯田市から交換取得
		4	1	建築科10名減員(定員40名)、総定員100名
	61	4	1	建築科10名減員(定員30名)、総定員90名
平成	3	3	22	体育館、塗装室他建設
	11	4	1	機械科をNC機械科(定員20名)に改称し、自動車整備科を2年制(定員20名)にして両科ともに普通課程へ移行、総定員90名
	13	1	30	自動車整備科第2実習室、コンピューター室建設
		4	1	建築科10名減員(定員20名)、総定員80名
	14	4	1	平成14年度入校生から、普通課程(NC機械科・自動車整備科)の授業料等を徴収
	17	4	1	NC機械科(定員20名)を廃止、平成17年度入校生から、建築科を木造建築科(定員20名)[普通課程]と、建築科(中卒者定員5名)[短期課程]に分科、総定員65名
		7	1	デュアルシステム機械科(定員5名+5名)[短期課程]を増設、総定員75名
	18	4	1	建築科(中卒者定員5名)[短期課程]を廃止、総定員70名
	19	12	28	デュアルシステム機械科(定員10名)を廃止、総定員60名
	21	6	4	長野技能五輪選手育成モデル事業実施(~H23.3.31)
	28	5	16	創立70周年記念植樹の実施
	29	1	31	高森町、高森町商工会及び本校による事業継承、就業マッチングの連携に関する協定を締結

飯田技術専門校の変遷

時期	校の名称	学科変遷(通年)						総定員	
昭21.5	飯田職業補導所	(昭和21年5月16日開設)						30	
昭23.2	飯田公共職業補導所	建築科							70
昭24.7									90
昭33.7	飯田職業訓練所	建築大工科	木工科(建具科)	石工科				95	
昭36.10				統合		ブロック建築科			165
昭37.7								140	
昭39.10								170	
昭44.10	飯田専修職業訓練校								
昭48.4		廃止		廃止		機械科	110		
昭53.4	飯田技術専門校	建築科							
昭55.4	(校舎を上飯田から現在地に移転新築)								100
平3.3	(体育館建設)								90
平11.4	(自動車整備科を2年制に移行)								
平13.1	(自動車整備科第2実習室等建設)							80	
平17.4								65	
平19.12		木造建築科							75
平成28年度									70
								60	
		(開設から70年)							

修了者数(通年) -昭21~平28.3-	建築	木造建築	木工	石工	ブロック建築	機械	自動車整備	計
	2,082	117	337	258	215	1,063	1,089	5,161

写真で見る飯田技術専門校の歩み

(設立当時、昭和30年代、40年代、50年代、60年代、平成時代) (当時の年齢別人口・就業人口等)

設立当時

- ・昭和21年に長野県飯田職業補導所として開設、建築科(定員30名)発足しました
- ・昭和23年に飯田公共職業補導所と改称され、同23年12月に喬木公共職業補導所を統合、鈴加町へ移転しました
- ・昭和26年には庁舎を上飯田へ新築移転しました
- ・校歌も「風越山の朝風に……」ではじまります

写真は職業訓練法施行15周年記念
特集号『朝風』より

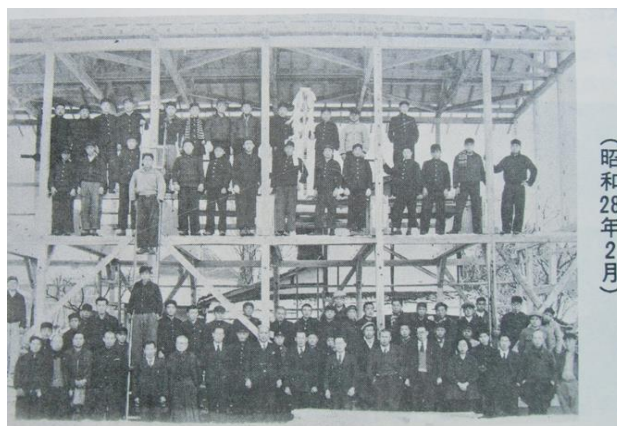


鈴加町庁舎前にて(昭和23年)



石工科・建具科第一期生

昭和25年7月



(昭和28年2月)

木工科実習場建設



昭和26年12月26日、飯田市上飯田(白山町)6940に新築移転後、昭和55年3月31日までの位置図(左図)



昭和39年10月1日、自動車整備科は飯田市鼎切石(旧下伊那郡鼎町須志角5103)に設置

昭和48年4月「業務概要」より

昭和30年代

★昭和30年当時の学科 建築科、木工科、石工科

・昭和32年当時の校舎、校旗です ▶



▲昭和32年 木工科
冬の暖はダルマストーブの時代がしばらく続きました



▲昭和31年 創立10周年記念イベント
飯田下伊那地域を自転車で一周しました



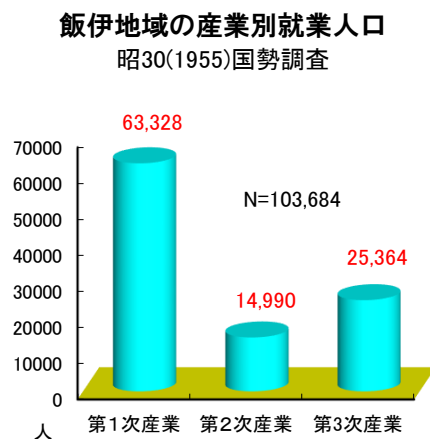
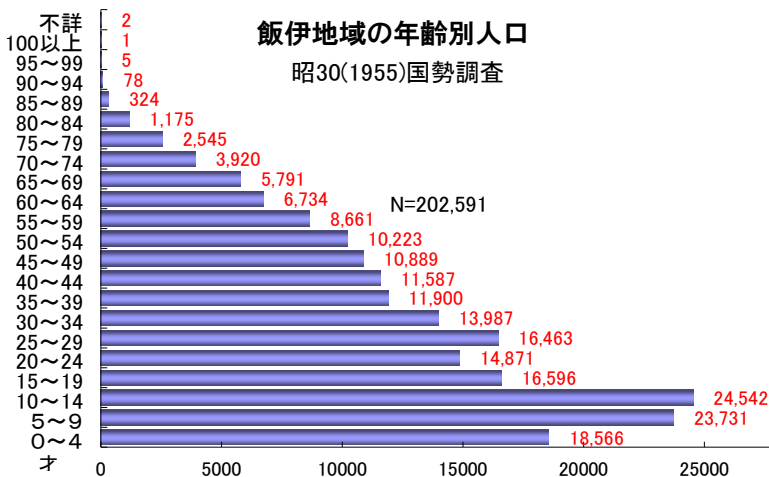
▲昭和32年 寮生活の様子
当時は集団生活で、大勢の相部屋でした



▲昭和32年 建築科



▲昭和32年 石工科
やがてコンクリートブロックが主流となり、昭和37年からブロック建築科へ統合となりました





▲昭和41年 自動車整備科 有鉛ガソリンの時代でした



▲昭和41年 建築大工科
在来工法は現在も根強い人気があります



▲昭和41年 機械科 高度経済成長期でした



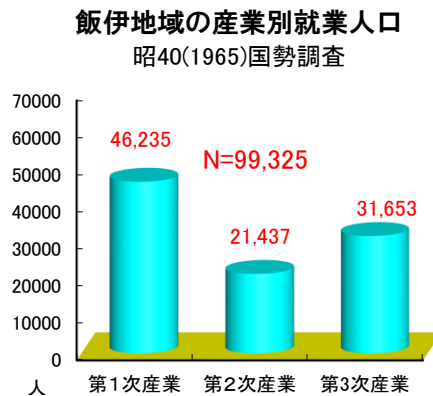
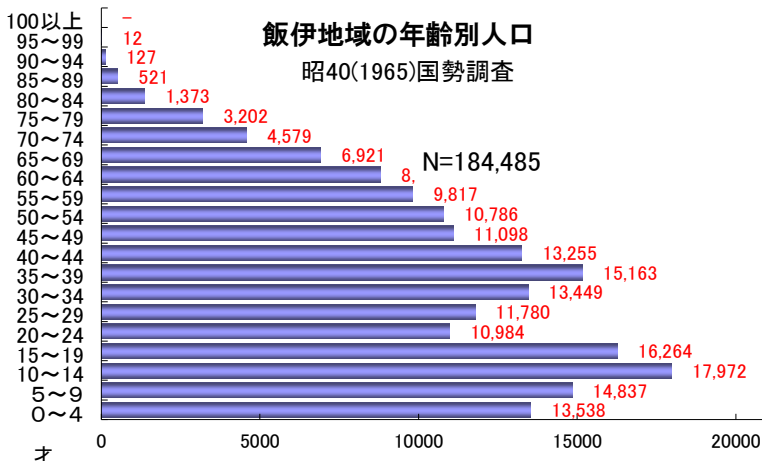
▲昭和41年 校内バレーボール大会
当時はトレパン姿で屋外競技、ネット支柱は木製でした
裏側の山は風越山へと続きます



▲昭和42年 自動車整備科 なつかしいポディーデザインです



▲昭和42年 建築大工科
熱中症対策に麦わら帽子は昔から機能的です



昭和50年代

★昭和50年当時の学科 自動車整備科、建築科、機械科

・昭和53年4月
校名を飯田技術専門校に改称

・昭和55年4月
現在の飯田市松尾に移転新築しました
同時に寄宿舎も建て替えました



新校舎(実習棟)

寄宿舎



▼<昭和51年のクラブ活動>
当時はクラブ活動や遠足がありました



野球クラブ



美術クラブ



バドミントンクラブ(当時は屋外で)



バレーボールクラブ



軟式庭球クラブ



卓球クラブ



書道クラブ



▲昭和53年 建築科
個人からの依頼によりリフォーム中

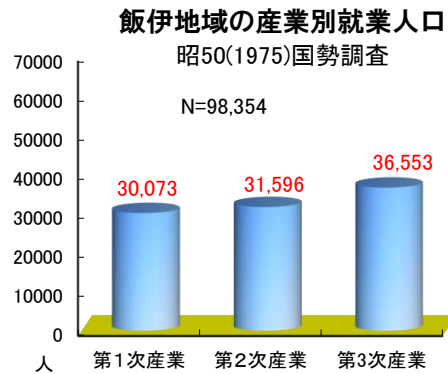
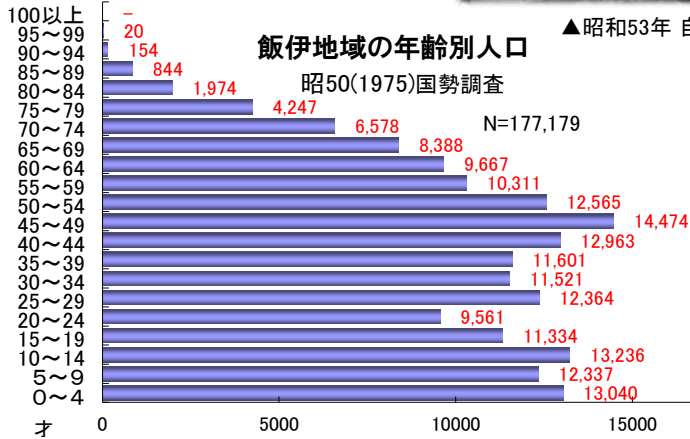


▲昭和53年 自動車整備科



▲昭和53年 機械科

※この年に長野県内で第33回国民
体育大会が開催されました



昭和60年代

★昭和60年当時の学科 自動車整備科、建築科、機械科



▲昭和63年 入校式
当時 体育館はなく、入学・修了等の諸行事は建築科(現木造建築科)実習室を、その都度片付けて行われました



▲昭和63年 建築科



▲昭和63年 自動車整備科



▲昭和63年 機械科

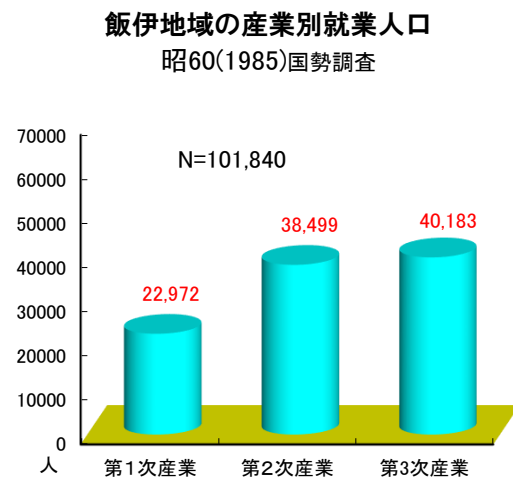
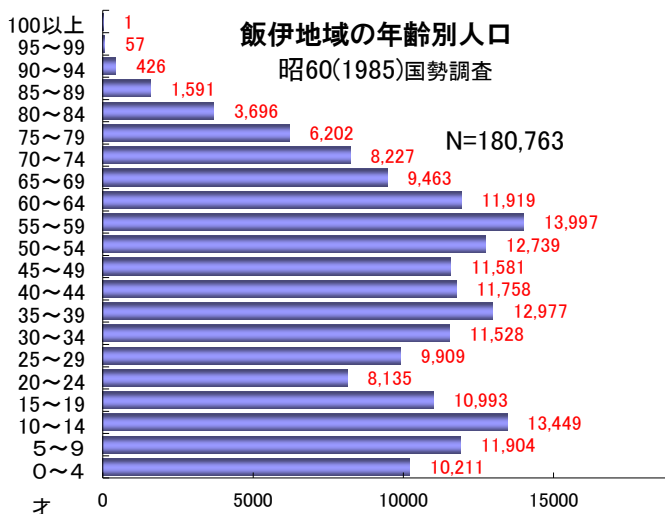


▲昭和63年 寄宿舎厨房



▲昭和63年 寄宿舎食堂

(昭和55年の校舎新築移転と同時に寄宿舎も新たに整備されました 平成12年度で廃止となっています)





平成11年 建築科

平成17年度入校生から建築科(定員20名)を木造建築科(高卒者定員20名)「普通課程」と、建築科(中卒者定員5名)「短期課程」に分科しましたが、中卒者の受入れは廃止となり、平成18年度からは現在の木造建築科(高卒程度20名)となっています

なお、平成3年3月に体育館が新しく建設されたため、体育館を活用して、訓練生の1年間の成果を発表する展示及び即売する一般公開(2014から技能フェスタに改称)を本格的に実施することができるようになりました

また、校外実習として東屋や小規模住宅等の建築を実施してきています(左写真)

平成10年 自動車整備科

平成11年度から自動車整備科は2年制(普通課程)となり、二級自動車整備士の資格が取れるようになりました

平成13年1月30日に自動車整備科第2実習室が建設されました



平成12年 NC機械科

平成11年度から機械科をNC機械科(定員20名)に改称になりましたが、平成17年4月に廃止となり、同年7月にデュアルシステム機械科となり、平成19年12月28日をもって同科が廃止となりました

現在はスキルアップ講座や技能五輪・検定研修で有効活用しています

なお、平成14年度から普通課程(NC機械科・自動車整備科、木造建築科は平成17年度から)の授業料等を徴収することになりました



自動車整備科

Automotive Mechanice Course

2年制

定員20名
普通課程

二級自動車
整備士コース

国家資格の自動車整備士を目指し、二級自動車整備士に必要な知識・技術を習得します

基礎的な点検整備、車検整備、一般修理、応用的な故障探求、また、ハイブリッド車の取扱いまで幅広く実践的な技術者を養成します。

さらに、インターンシップによる職場体験や企業ガイダンス、就職講座など、充実した就職支援により社会で活躍できる、即戦力のある技術者を育成します。



▲車両整備実習

■国土交通省指定の二級自動車整備士養成施設

2年間の訓練を修了した後、登録試験(学科)に合格することで、二級自動車整備士の資格を取得することができます。

■基礎から実務さらに応用まで体系的なカリキュラムにより、実践的な実技訓練を実施し、即戦力となる自動車整備士を目指します

当校の教材車両の他に一般の車両の点検整備・車検整備・一般修理を行うとともに、校外実習では検査場で実際に継続検査の受検も行っています。

■より専門的な関連知識の習得

日々進化する自動車技術に対応するため、専門講師による電子制御技術やハイブリッド車の取扱いを習得します。さらに自動車钣金塗装・大型自動車整備等の幅広い専門知識も習得します。

■充実した段階的な就職支援

個別面接・工場見学・職業講和・就職ガイダンス・企業ガイダンス・就職マナー講座・インターンシップ(企業実習)等により体系的に就職を支援します。



▲車検整備実習



▲シャシ整備実習

《 主な訓練内容 》

国土交通省指定

第一種自動車整備士養成カリキュラム

<学科>

- 自動車工学、整備等関連学科
- 関係法令

<実技>

- 基本工作、機械操作、測定作業
- 故障探求、車検整備等の自動車整備法

<新技術講習等>

- 専門講師による新技術講習
- キャリアコンサルタントによる就職講座
- 研修旅行、スポーツ大会(バドミントン)など



《 取得可能な資格 》

- 二級(ガソリン、ジーゼル、二輪)自動車整備士(実技試験免除)
- 技能講習(ガス溶接、有機溶剤作業主任者、玉掛け、小型移動式クレーン、フォークリフト運転)
- 安全衛生特別教育(アーク溶接、クレーン運転5t未満、自由研削砥石、低圧電気取扱業務)
- 乙種第4類危険物取扱者 ● 小型中古自動車査定士

木造建築科

Carpentry Course

1年制

定員20名
普通課程

建築大工の2級技能士を目指し、基本的な技術・技能を修得します

木造住宅の構造・施工方法を基礎から学びます。手工具、木工機械の使用方法和工作方法を習得し、在来工法による建築設計・施工ができる建築大工の養成を行います。



▲建築実習

■建築関係の各種資格の実務経験短縮

1年間の訓練を修了すると、実務経験なしで2級技能検定の受験資格が得られ、2級建築士・木造建築士の受験資格を得るための実務経験が7年から3年に短縮されます。

■実践的な実技訓練により木造住宅の一連の建築方法を習得

実習で使用する刃物の研ぎや工具のメンテナンス方法から、基本的な木造建築の工法等の技術・知識を習得し、実際に依頼実習の建築物施工まで一連の実習を行います。安全で、きめ細かい指導が受けられます。



▲CAD建築製図

■実際に使用される木造住宅や技能フェスタ販売品を製作

実習で製作した木造住宅は、実際に製作を依頼されたもので、基本設計から材料加工、施工までの一連の技術を習得します。また、製作した実習作品は毎年3月開催の「技能フェスタ」で販売します。実際にお客様に使われるものを製作することで、達成感の得られる訓練を実施します。



▲課題製作実習

《主な訓練内容》

- 木造住宅の一連の建築実習
- 木材加工機械、電動工具等の操作方法
- 木造住宅の製図
- CAD建築製図
- 木造住宅の工作施工方法
- 木造建築の構造と積算
- 木造建築材料の種類と用途
- 技能五輪課題製作実習
- キャリアコンサルタントによる就職講座
- スポーツ大会(バドミントン)など



《取得可能な資格》

- 2級技能検定(実務経験なしで受験資格)
- 2級建築士(実務経験3年で受験資格)
- 木造建築士(実務経験3年で受験資格)
- 小型移動式クレーン
- 技能講習(フォークリフト運転 玉掛け)
- 2級建築CAD検定
- 安全衛生特別教育(自由研削砥石)

《 短期課程 》 — 在職者・求職者向け —

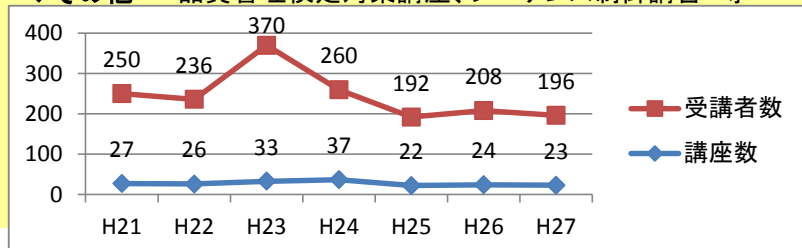
スキルアップ講座

対象：在職者
期間：半日～35時間

●実践的な技能・技術研修を実施し、飯伊地域産業界を中心に必要な人材育成、確保を図ります

[主な講座内容]

- ◆機械系 機械製図基礎講座 機械加工基礎講座 フライス盤実践 技能検定学科講座 等
- ◆自動車系 ハイブリッド車技術講習 電気自動車講習 自動車塗装講習 等
- ◆建築系 建築CAD試験準備講習 2級建築士試験準備講習 等
- ◆その他 品質管理検定対策講座、シーケンス制御講習 等



民間活用委託訓練

対象：転職者、求職者
期間：3か月程度（一部2年間）

●専修学校等の民間教育訓練機関等の幅広い教育訓練機関に職業訓練を委託し、離転職者等の早期就職を促進します

[主な実績] ()は平成28年度実績

- ◆介護福祉士養成科（介護福祉士の資格取得）
（飯田女子短期大学）
- ◆介護福祉科等（介護職員初任者研修取得）
（高齢者生活協同組合、飯田コアカレッジ）
- ◆OA事務・簿記会計科（パソコン、簿記検定合格を目指す）
（伊坪ビジネス）
- ◆オフィスワークスペシャリスト科（P検2級、秘書検定3級の合格を目指す）
（飯田ビジネス学院）
- ◆建設機械オペレーション科（車両系建設機械運転技能講習取得）
（ロジスティックアジマ）



機械実習室の有効活用

スキルアップ、技能五輪・技能検定

- ◆在職者を対象に実践的な技能・技術研修
（長野県スキルアップ講座）
- ◆技能五輪・技能検定の効果的な取得を目指す研修（飯田スキルアップ塾）



事業主委託訓練

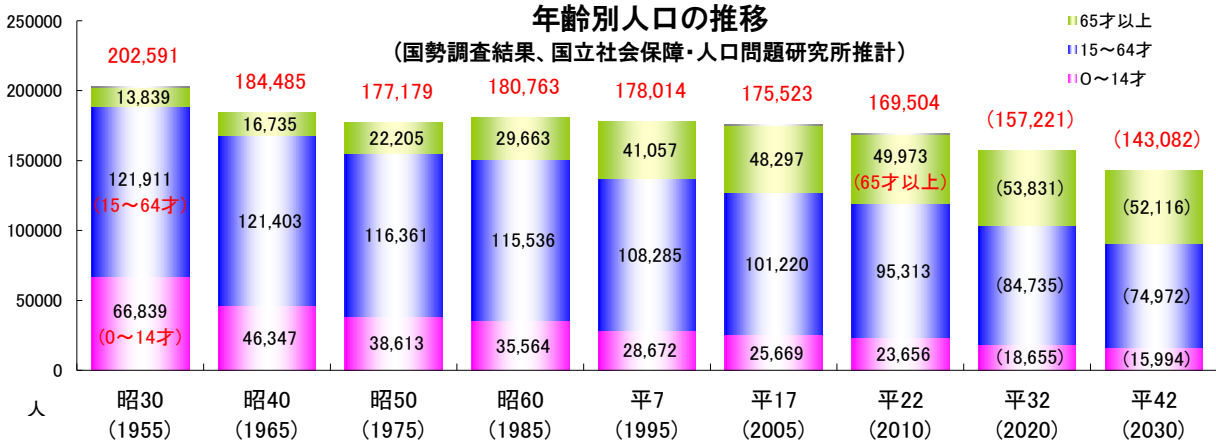
対象：求職者 期間：3か月程度

●現場実習を中心とした訓練を事業主に委託して実施し、離転職者等の円滑な再就職を促進する事業でしたが平成27年度を以って廃止となりました。

[主な実績]

- ◆機械オペレーター ◆森林整備 ◆プレス加工 ◆電子機器組立 ◆機械加工技術
 - ◆組立・検査加工 ◆木材製品製造加工 ◆溶接加工 ◆金属熱処理加工 ◆金型設計等
- 平成25年度実績：入校者2名、修了者1名、就職者1名
平成26年度実績：入校者2名、修了者2名、就職者2名
平成27年度実績：入校者1名、修了者1名、就職者1名



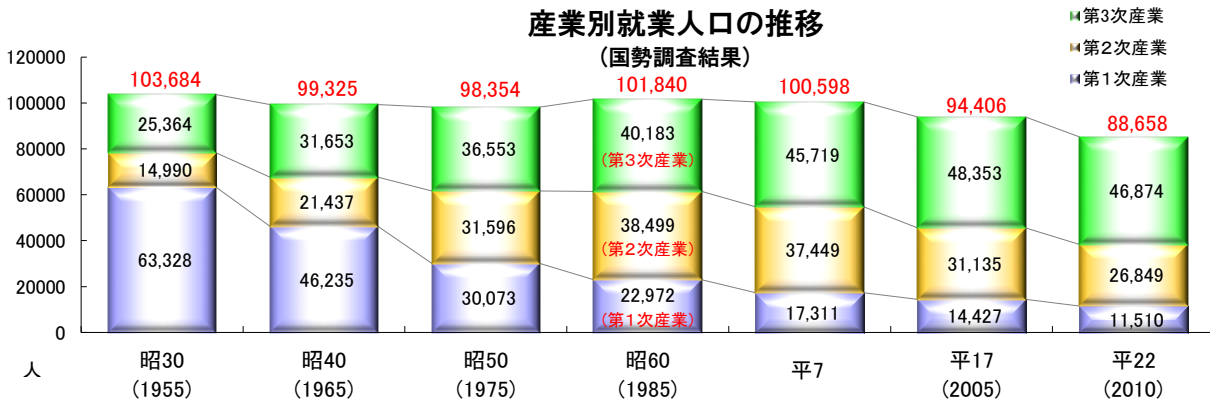


★子供や生産年齢人口(15~64才)は減少する一方、高齢者人口は増加しています。
 ★子供の人口は、高度経済成長期(S30~S47)と近年を比較すると2倍以上減少しています。

<平成22年の人口を100とした指数の推移>

区分	昭30	昭40	昭50	昭60	平7	平17	平22	平32	平42
65才以上	28	33	44	59	82	97	100	(108)	(104)
15~64才	128	127	122	121	114	106	100	(89)	(79)
0~14才	283	196	163	150	121	109	100	(79)	(68)
計	120	109	105	107	105	104	100	(93)	(84)

区分	昭30	昭40	昭50	昭60	平7	平17	平22	平32	平42
生産年齢人口 総人口	60%	66%	66%	63%	61%	58%	56%	(54%)	(52%)

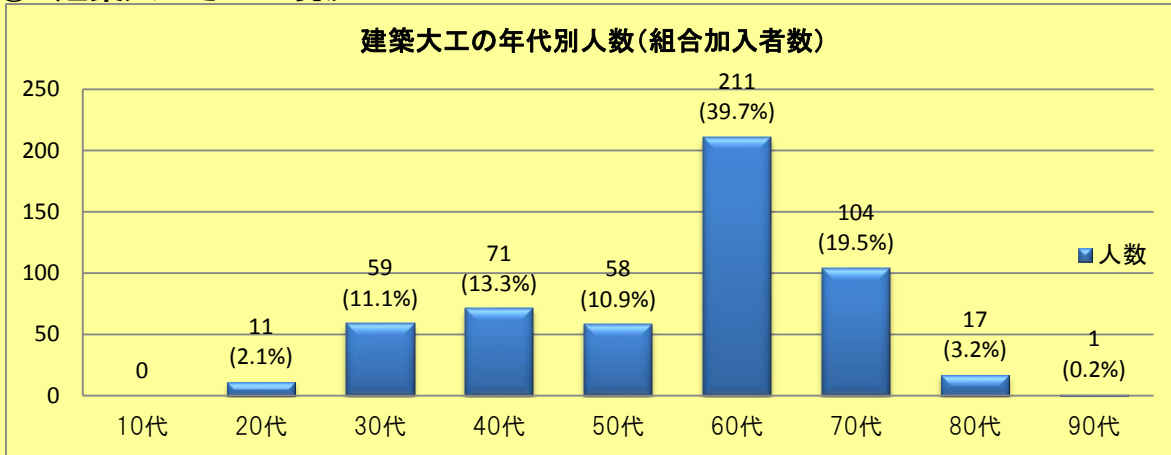


<平成22年の就業人口を100とした指数の推移>

区分	昭30	昭40	昭50	昭60	平7	平17	平22
第1次産業	550	402	261	200	150	125	100
第2次産業	56	80	118	143	139	116	100
第3次産業	54	68	78	86	98	103	100
計	117	112	111	115	113	106	100

★ 生産年齢人口は減少していますが、イノベーション等の企業経営努力により地域産業の維持・振興が図られています。産業力にはクォリティーが求められ、人材育成は時を越えて欠くことのできない重要なテーマの一つです。

① 建築大工さんの現況



飯下建設産業労働組合連合会 (2016年11月現在)

★ 年代別では、60歳以上が63%程となっている一方、50歳代までは37%程。次代を担30歳までは13%程と、後継者の人材育成が必要となっています。

② 最近の木材利用に関する全国的な取り組み事例等

- 日本の木材自給率は27%(H23)程度となっていますが、鉄やコンクリートにはない「温もり」があることから、耐火機能の高い建材が開発されており、都市部を中心に木造オフィスビル・商業施設・学校等の大型木造施設が建築されてきています。(木造5階建マンション-世田谷-等)
- 東日本大震災の災害復興の中で、宮城県では再生可能で人にも地球にもやさしい木を活かした「木化都市構想」の取り組みがされています。
(例) 太陽光発電のパネル受施設を全て木材利用(強度強化材)
- ヨーロッパでは、木は加工し易いとともに木材として炭素が残ることから、全体のエネルギーを少なくすることができる素材として見直しが始まっています。

③ 飯伊地域の地域材利活用の取り組み

- JAS規格認証取得 根羽村森林組合(H25.3)
- 製材施設「ほうりん」の整備 飯伊森林組合(H24.6)
- 南信州 木づかいネットワークの活動
 - ・地域材の地産地消へ向けた普及・促進
 - ・構成: 森林組合、製材企業、工務店、建築設計事務所等
 - ・事務局: 飯伊森林組合



④ 後継者難の建築大工業等の事業継承と安定した就職機会の確保の取り組み

- 木造建築科存続のための一つの方策として、平成29年1月31日、高森町、同町商工会及び飯田技術専門校による事業継承、就業マッチングの連携に関する協定を、先進事例として締結したことによって未来へ向けて新たな第一歩を踏み出しました。



★ 地域材利用促進の取り組みが精力的に展開されています。地域材の地産地消は地域経済の活性化にも大きな効果がありますが、木造建築物は在来工法となり、最終的には建築大工の技能や技術が必要であることから今後も地元市町村、高等職業訓練校(大工一貫教育)、森林組合及び建設労働団体等と連携して、飯田技術専門校は建築大工職人の人材育成に努めてまいります。また、これらの取り組みによって県内あるいは全国から、飯田技術専門校へ入校を希望される方が増えることを期待しています。

本校は、昭和21年に地域の公共職業能力開発機関として開設されて以降、経済の発展とともに地域ニーズに合った人材育成に取り組み、多くの産業人を送り出してきました。

途中、伊那谷もオイルショック・バブル崩壊・世界金融危機等の経済危機に直面しましたが、各企業や事業所の英知により今日の地域経済の営みがあります。

当地域も下請加工型企业が多いことや、人口減少、少子化、地域コミュニティ維持などの課題も多い一方、リニア中央新幹線・三遠南信自動車道の進展、航空機産業等の成長期待分野へのプロジェクト展開といった先行きに期待できる取組みも活発化しています。

地域課題に対しては、現況を把握・分析して共有し、皆が手を携えて果敢に正面から布石を打たないと将来は開けないと考えますが、こうした中でも、様々な分野で人材育成は時を越えて重要なテーマの一つです。

今後も当校は、現在の自動車整備科・木造建築科の普通課程はもとより、短期課程として企業ニーズに応じた実践的な技能・技術研修を行うスキルアップ講座の開催及び少子高齢化社会の中、リニアや三遠南信道等の進展を踏まえ、人材不足分野(介護福祉、建設機械等)の訓練について、民間の幅広い教育訓練機関等の皆様と連携した委託訓練並びにハローワーク及び地元市町村等と連携を密にしながら、引き続き地域産業を担う人材育成に努め、地域産業の一翼を担ってまいります。

